



2026年2月期 第3四半期

決算説明資料

2026年1月9日

古野電気株式会社

注意事項：

本資料に記載されている内容は、公表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣による将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのためさまざまな要素により、記載された見通しと異なる結果となり得ることをご承知おきください。

なお、当資料の数値表記は、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表に記載の金額は、表示単位未満を切り捨てて表示し、比率その他の数値は、四捨五入により表示しております。

◆ 売上高：增收

- 舶用事業の商船・プレジャーボート向けの販売堅調、保守サービスも拡大
 - 商船向け市場での新造船向け販売が増加し、換装向け販売も高水準を維持
 - 米州のプレジャーボート向け販売はオフシーズンでも堅調に推移
 - 保守サービス売上は国内外ともに着実に拡大

◆ 営業利益：増益

- 成長投資を継続しつつ、舶用事業の売上拡大で増益
 - 保守サービスの事業成長を目的としたDX投資
 - 海外拠点の拡充に伴う採用数の増加
 - 国内外での給与水準の見直し

※ 為替感応度（2025年2月期実績値）

【ド ル】売上高：1.3億円、営業利益：0.4億円
【ユーロ】売上高：2.5億円、営業利益：1.1億円

舶用事業の販売拡大が収益を押し上げ、増収増益を実現。
上期における税負担減少の影響により、当期純利益は前年同期比で大幅増。

(単位：百万円)	2025年2月期 第3四半期	2026年2月期 第3四半期	増減額	増減率
売上高	93,600	102,756	+9,155	+9.8%
売上総利益 (対売上高比率)	39,504 (42.2%)	43,271 (42.1%)	+3,767	+9.5%
販売管理費 (対売上高比率)	29,022 (31.0%)	30,592 (29.8%)	+1,570	+5.4%
営業利益 (対売上高比率)	10,481 (11.2%)	12,679 (12.3%)	+2,197	+21.0%
経常利益 (対売上高比率)	10,828 (11.6%)	14,323 (13.9%)	+3,495	+32.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益 (対売上高比率)	8,538 (9.1%)	13,310 (13.0%)	+4,772	+55.9%
研究開発費 (対売上高比率)	4,572 (4.9%)	4,399 (4.3%)	▲173	▲3.8%
設備投資額 (対売上高比率)	3,248 (3.5%)	3,328 (3.2%)	+79	+2.5%
減価償却費 (対売上高比率)	2,655 (2.8%)	2,834 (2.8%)	+178	+6.7%

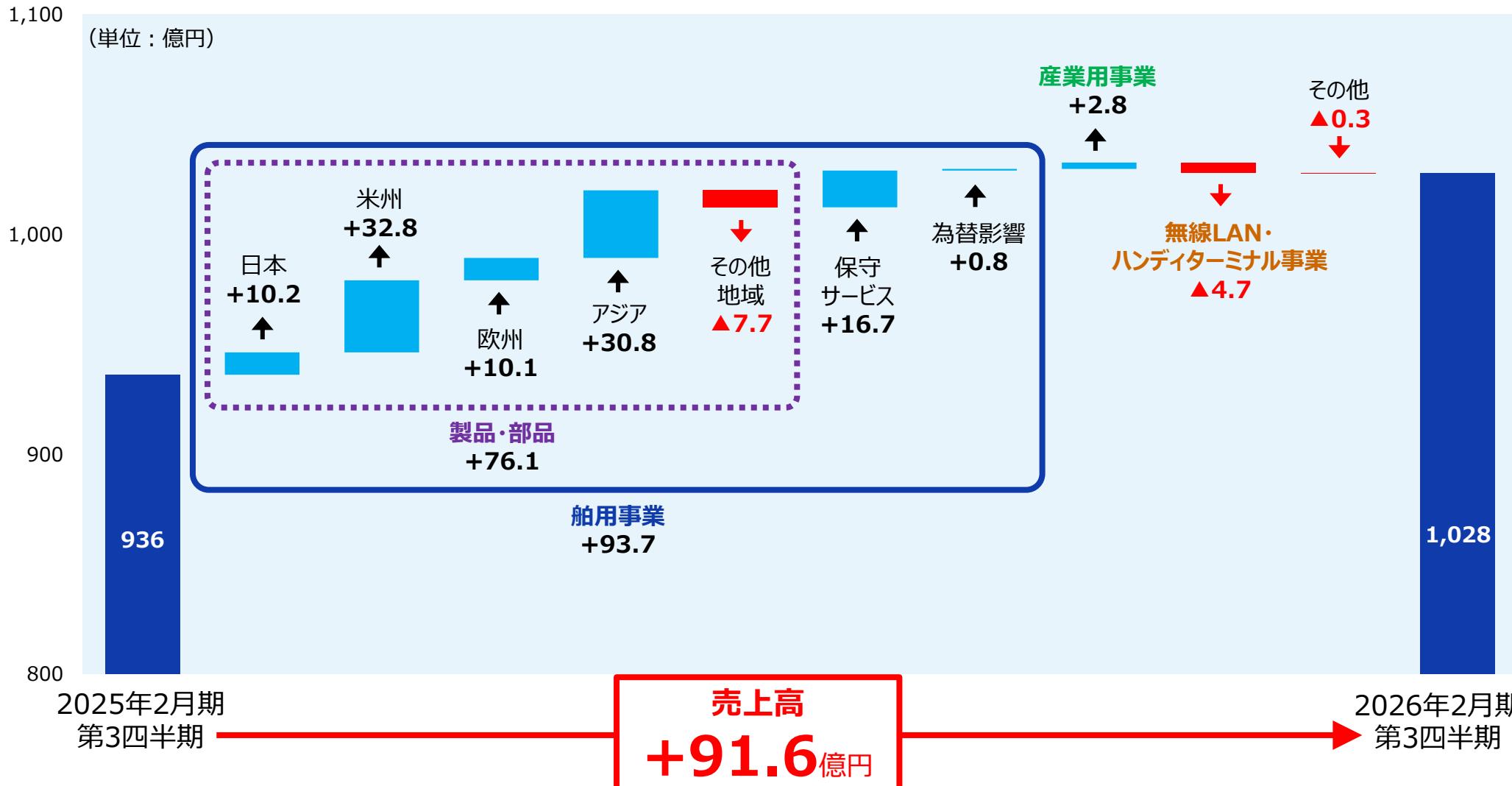
(単位：円、期中平均レート)

為替（対ドル）	151	149	▲2	▲1.4%
為替（対ユーロ）	164	166	+2	+1.0%

業績ハイライト：売上高の増減分析

FURUNO

商船向け市場での新造船向け販売が増加し、換装向け販売も高水準を維持。米州のプレジャー・ボート向け販売はオフシーズンでも堅調に推移。保守サービス売上は国内外ともに着実に拡大。



業績ハイライト：売上総利益の増減分析

FURUNO

舶用事業は売上の増加により増益を確保。産業用事業は時刻同期製品の
売上増加がヘルスケアの減少を補い、僅かながらも増益を達成。

500

(単位：億円)

450

395

↑
為替影響
+0.9

↑
売上増加等
+40.7

舶用事業
+41.6

↑
ITS・GNSS
売上増加
+3.7

↓
ヘルスケア
売上減少
▲3.5

↑
防衛装備品
+0.5

産業用事業
+0.7

無線LAN・
ハンディ
ターミナル事業
▲2.4

↓
その他
▲2.2

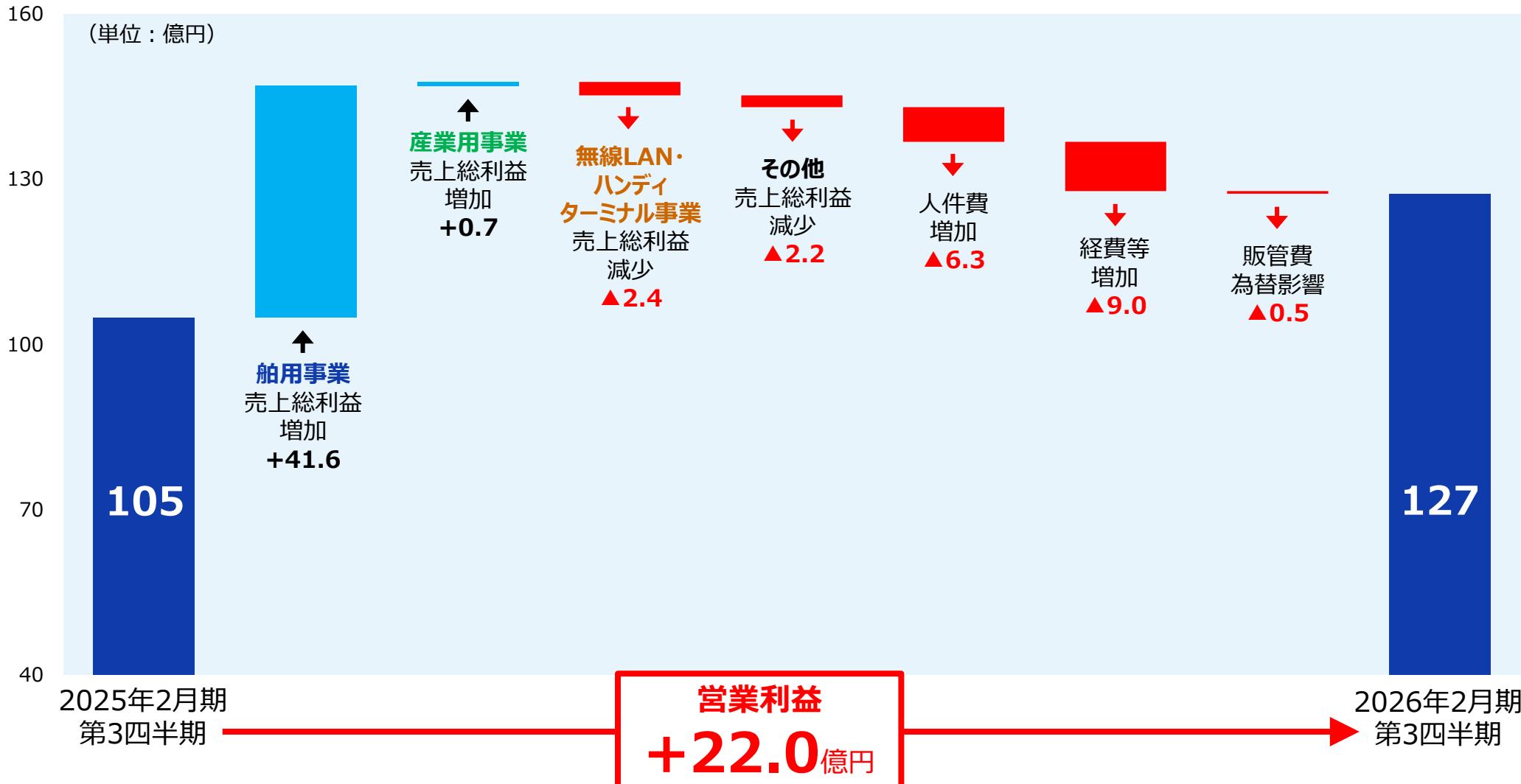
433

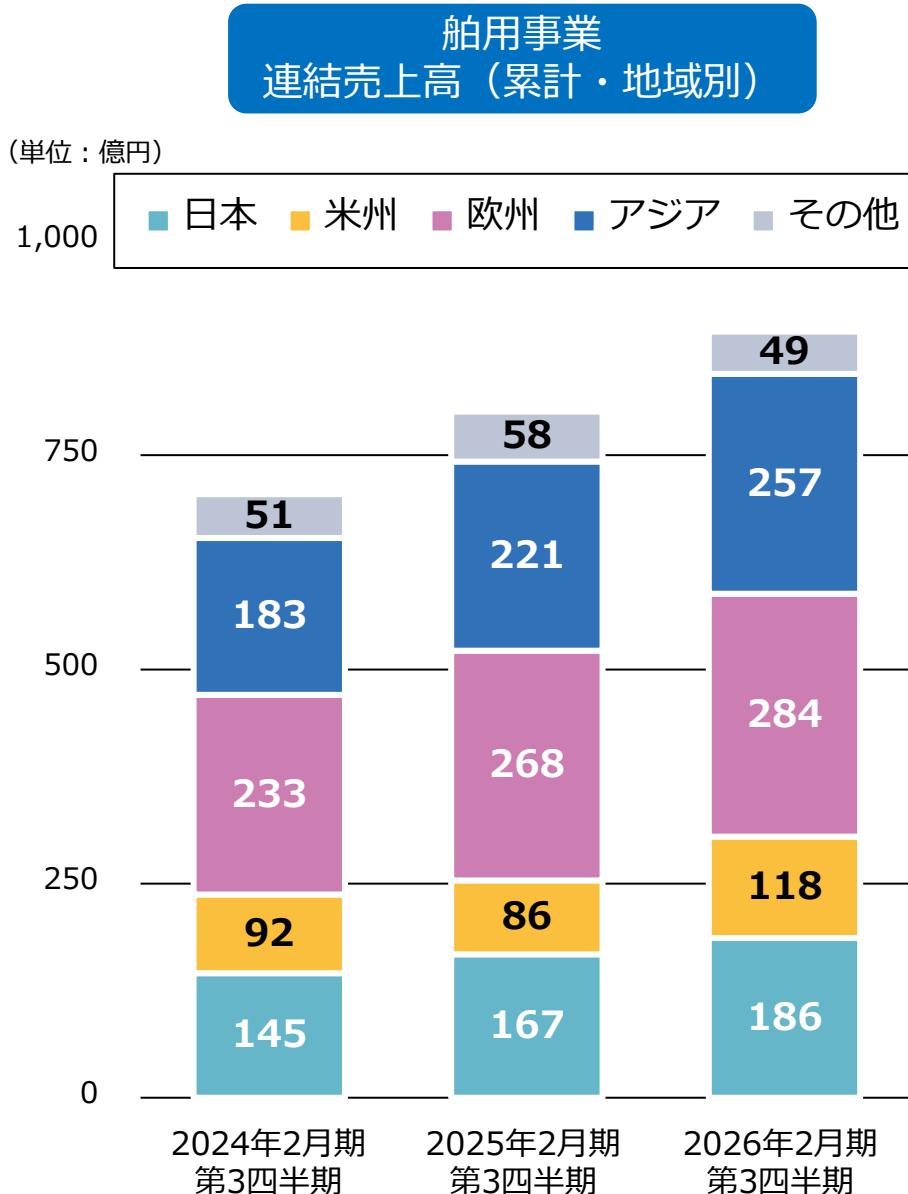
2025年2月期
第3四半期

売上総利益
+37.7 億円

2026年2月期
第3四半期

将来成長に向け、人財やDX等への計画的投資を継続。
販管費は増加したものの、船用事業の売上拡大により増益を確保。





船用事業

売上高 **894億円** (前年同期比 **+11.7%**)

セグメント利益 **132.1億円** (**+27.8億円**)

- 商船向け市場は好調な需要環境が継続
- プレジャーボート向け市場全体は軟調に推移するも、戦略商品の販売が好調
- 保守サービス売上は国内・海外ともに増加

◆ 日本：売上高 **186億円** (**+11.5%**)

- 漁業向け機器の販売が減少
 - 商船向け機器の販売や保守サービスが継続して増加
- ◆ 米州：売上高 **118億円** (**+36.9%**)
- プレジャーボート向け機器の販売がオフシーズンでも堅調を維持

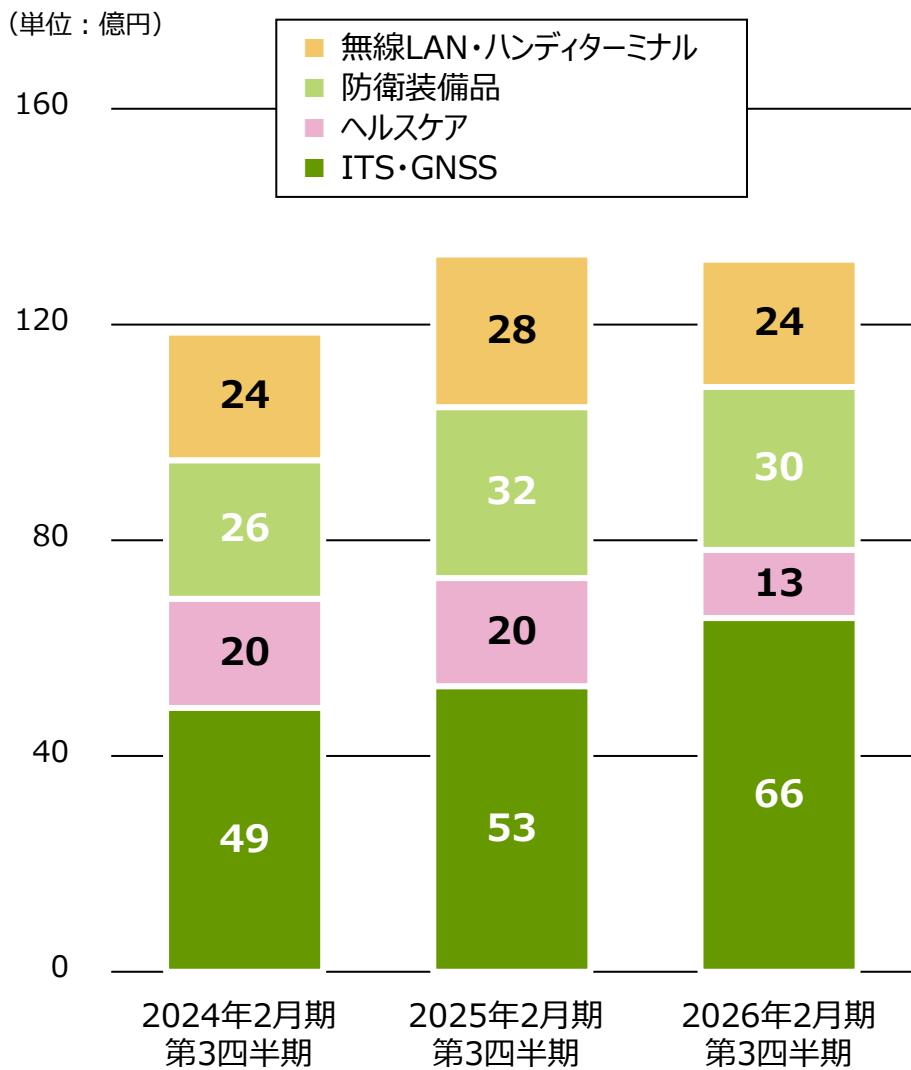
◆ 欧州：売上高 **284億円** (**+5.8%**)

- 主に商船の既存船向け機器の販売や保守サービスが高い水準を維持

◆ アジア：売上高 **257億円** (**+16.2%**)

- 主に商船の新造船向け機器の販売が継続して増加
- 保守サービスが堅調に推移

産業用事業、無線LAN・ハンディターミナル事業 連結売上高（累計・事業別）



産業用事業

売上高 **107億円** (前年同期比 **+2.7%**)

セグメント利益 **2.8億円** (**▲0.0億円**)

- 時刻同期製品の海外向け販売が好調に推移
- ヘルスケアと防衛装備品の売上は減少

- ◆ ITS・GNSS : 売上高 **66億円** (**+23.7%**)
 - 時刻同期製品の販売が海外向けを中心に好調に推移
- ◆ ヘルスケア : 売上高 **13億円** (**▲36.6%**)
 - 中国市場でのコスト競争の激化による影響から生化学分析装置の販売が減少
- ◆ 防衛装備品 : 売上高 **30億円** (**▲4.7%**)
 - 期初の新システム移行による影響の挽回に向け、生産出来高は増加基調

無線LAN・ハンディターミナル事業

売上高 **24億円** (前年同期比 **▲16.5%**)

セグメント利益 **0.4億円** (**▲1.9億円**)

- 文教市場向けの需要環境は低調に推移し、無線LANアクセスポイントの販売が減少

※参考資料：連結貸借対照表

FURUNO

(単位：百万円)	2025年2月期 通期	2026年2月期 第3四半期
流動資産 (現金及び預金) (たな卸資産)	91,605 (16,113) (43,573)	95,991 (20,873) (44,331)
固定資産 (有形固定資産) (無形固定資産) (投資その他の資産)	31,913 (16,611) (6,087) (9,125)	35,409 (17,332) (6,402) (11,674)
資産合計	123,519	131,400
流動負債 固定負債	35,690 15,209	31,643 17,311
負債合計	50,899	48,955
株主資本 その他 非支配株主持分	64,259 7,927 433	72,886 9,138 420
純資産合計	72,619	82,445
負債純資産合計	123,519	131,400
自己資本比率	58.4%	62.4%

通期の業績予想に変更はなく、第4四半期は販管費増加の季節要因があるものの、売上・利益ともに過去最高の更新を目指す

(単位：百万円)	2024年2月期 通期実績	2025年2月期 通期実績	2026年2月期 通期予想
売上高	114,850	126,953	137,500
営業利益 (対売上高比率)	6,519 (5.7%)	13,181 (10.4%)	16,000 (11.6%)
経常利益 (対売上高比率)	8,169 (7.1%)	14,158 (11.2%)	17,500 (12.7%)
親会社株主に帰属 する当期純利益 (対売上高比率)	6,238 (5.4%)	11,457 (9.0%)	15,500 (11.3%)
為替 (対ドル)	140	151	148
為替 (対ユーロ)	152	164	166

「配当性向30%以上」の方針の下、配当金は150円の予定

(単位：円)	第2四半期末	期末	年間	連結配当性向
2025年2月期	35	75	110	30.3%
2026年2月期・予想	75	75	150	30.6%

さらなる成長に向け、以下の重点分野への注力と、
人財・研究開発・販売促進などへの積極的投資を継続

船用事業



保守サービス
自社エンジニアの案件増加



プレジャー市場
米州を中心に販売の加速



デジタライゼーション（DX）
自動運行とリモート管理へ

産業用事業



時刻同期
海外展開によるグローバル化



防衛装備品
防衛産業の市場拡大への対応

トピックス

2025年度NMEA最優秀商品賞を5部門で受賞

NMEA : National Marine Electronics Association (米国海洋電子機器協会)

毎年秋にその年に発売された舶用電子機器の中から最もデザイン、性能、信頼性に優れた商品を選定。

当社は、1971年度にNMEA最優秀メーカー賞「魚群探知機部門」を受賞して以来、**55年連続で表彰**されている。

2025年NMEAにおける当社の受賞：全22部門中5部門で最優秀商品賞



レーダー部門
レーダーセンサー
DRS4D-NXT



商船機器部門
航海用レーダー
FAR-2228-NXT-BB



全周サーチライト ソナー部門
全周型スキャニングソナー
CSH-10



ライブ ソナー部門
全周型カラースキャニングソナー
CSH-8L MARK-2



マリンPCソフトウェア部門
ナビゲーションソフトウェア
TZ Professional*

・詳細：https://www.furuno.co.jp/news/general/general_category.html?itemid=1725&dispmid=1017

*：当社のパートナー企業であるNobeltec社が開発したソフトウェアです

全周ARナビゲーションシステム搭載の船舶が、 令和7年度「船員安全・労働環境取組大賞」を受賞

次世代内航タンカー船「鶴伸丸」における船員労働環境向上

当社製品であるARナビゲーションシステム「型式：AR-100M」（全周ARオプション：船用カメラユニット「型式：AR-2001」付き）を搭載した鶴見サンマリン株式会社の次世代内航タンカー船「鶴伸丸」が、**令和7年度「船員安全・労働環境取組大賞（SSS大賞）」を受賞**しました。本賞は、国土交通省海事局が実施する表彰制度で、**船員の安全確保や労働環境の向上に寄与する優れた取り組み**を「先進的」「模範・実践的」「効果的」の3つの選定基準から表彰するものです。

取り組み内容

鶴見サンマリン株式会社では、エネルギー転換や働き方改革など時代の変化とその先の世界を見据えた船舶高度化プロジェクトを推進しており、その一環として同社グループのフラッグシップとして「鶴伸丸」を建造しました。同船舶には多くの新技術が採用されており、その中の一つとして**船員の視認性・操作性・安全性向上のために、当社の全周ARナビゲーションシステムも搭載**されています。本システムの搭載により、従来の航海機器では得られなかった直感的で広範囲な情報把握が可能となり、**船員の負担軽減と安全性の向上に大きく寄与**しています。



鶴見サンマリン株式会社 次世代内航タンカー船「鶴伸丸」

・詳細：https://www.furuno.co.jp/news/general/general_category.html?itemid=1734&dispmid=1017

2025年度 人工知能学会全国大会にて「全国大会優秀賞」受賞

海洋研究開発機構とのAI技術に関する共同研究成果を発表

本研究では、**JAMSTEC（海洋研究開発機構）との共同研究を通じて、革新的なAI海洋予測技術を開発しました。**従来の物理シミュレーションでは、海況の予測に数時間～数日を要していましたが、本技術では人工知能を応用することで、わずか数分で10日先の海況を予測することが可能となります。この成果は、海運・漁業・防災など幅広い分野への応用が期待されており、学術的にも高く評価されたことから、今回の受賞につながりました。

受賞内容

海況の正確な予測は**船舶の効率的な運航や漁業活動において不可欠**であるが、微分方程式に基づく数値計算を用いた予測は多くの計算時間を要する。本研究では、代理モデルを用いた10日間の全球海況予測の可能性の探索を目的とし、**マルチスケールな特徴を扱うGNNに基づく海況予測モデルを開発**した。特に、格子状の海況データに加えて海表面の気象予測データを結合したものを入力し、気象が海況の表層付近に及ぼす変動をモデルに反映させた。



・詳細：https://www.furuno.co.jp/news/general/general_category.html?itemid=1740&dispmid=1017

「健康経営優良法人（ホワイト500）」に7年連続で認定

当社は、従業員の健康増進を目指し、**健康意識の向上と安心して働く職場環境の整備を強化**するため、FURUNOグループ「健康宣言」を制定しています。

古野電気健康宣言

私たちは、経営理念のもと従業員一人ひとりが心身共に健康で、明るく活き活きと働くことができるよう、従業員の健康意識向上と、安心して働きつづけることのできる職場環境の整備に向けた取り組みを推進していきます。

・「古野電気健康宣言」：<https://www.furuno.co.jp/csr/sociality/health.html>

当社は経営理念のもと従業員一人ひとりが心身共に健康で明るく活き活きと働くことができるよう、従業員の健康意識向上と安心して働きつづけることのできる職場環境の整備に向けた取り組みを推進しています。

これら健康経営への取り組みが認められ、大規模法人部門において**2019年度から7年連続で「健康経営優良法人（ホワイト500）」に認定されました。**当社では今後も、社員が健康で充実した日々を過ごせる健康経営を戦略的に実践してまいります。

「健康経営優良法人制度」は、地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みのもと特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業などの法人を顕彰する制度です。健康経営優良法人（大規模法人部門）認定法人の中でも、健康経営度調査結果の**上位500法人のみが通称「ホワイト500」として認定**されます。



2025
健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
大規模法人部門
ホワイト500

海ごみゼロおおさか未来創造プロジェクト特設サイト公開

大阪湾へのプラスチックごみ流出ゼロを目指せ！

FURUNOは大阪大学大学院工学研究科・大阪府環境農林水産部と連携して取り組んでいる「海ごみゼロおおさか未来創造プロジェクト」の特設サイトを公開しました。

「海ごみゼロおおさか未来創造プロジェクト」について

2025年2月から、大阪大学大学院工学研究科、大阪府環境農林水産部、当社の3者が連携し、「海ごみゼロおおさか未来創造プロジェクト」を始動しました。本プロジェクトは、**2050年までに海洋プラスチックごみによる新たな汚染をゼロにする「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」※の実現**に向けて活動しています。

その第一歩として、大阪湾へのプラスチックごみ流入ゼロを目標に掲げ、実態調査や地域住民への情報発信、啓発活動を通じて、海洋プラスチックごみ対策を推進します。

※：2019年のG20大阪サミットで日本が提案し、各国首脳間で共有された国際的な取り組み。



・詳細：https://www.furuno.co.jp/news/general/general_category.html?itemid=1742&dispmid=1017

・特別サイト：<https://future-vision.furuno.co.jp/osakabay/>

須磨海岸沖でのブルーカーボン活動を開始

海中の様子を「見える化」する技術で、豊かな海づくりに貢献

FURUNOは海洋環境の保護活動に取り組む一般社団法人Suma豊かな海ネットワークと神戸市須磨海岸沖での**ブルーカーボン活動の協業を開始**しました。当社は、海洋・漁業分野における技術革新を通じて、持続可能な社会の実現を目指しています。また、2050年の未来社会コンセプト「Ocean 5.0」*の実現に向け、「海の恩恵をすべての生きるものが受け、さらに海へ恩返しする未来」を描き、海洋環境の保全にも積極的に取り組んでいます。

ブルーカーボンについて

ブルーカーボンとは、海洋や沿岸域の生態系（藻場、海草、マングローブなど）が大気中の二酸化炭素（CO₂）を吸収し、炭素として海中に固定する仕組みを指します。これらの生態系は、**地球温暖化の緩和に貢献する重要な役割も担っており、気候変動対策としても世界的に注目されています。**



左：一般社団法人Suma豊かな海ネットワーク 代表理事：若林 良
右：FURUNO 常務執行役員 船用機器事業部長：矮松 一磨

・詳細：https://www.furuno.co.jp/news/general/general_category.html?itemid=1741&dispmid=1017

* : Ocean 5.0特別サイト：<https://future-vision.furuno.co.jp/>

2050年の海での暮らしを考える「海のお仕事体験プログラム」を開催

"見えないものを見る"会社 古野電気で、海の未来を創造して伝えよう！

FURUNOは2025年7月30日（水）に、夏休み期間中の小学校5・6年生を対象とするお仕事体験プログラム「"見えないものを見る"会社 古野電気で、海の未来を創造して伝えよう！」を開催しました。

今回開催したお仕事体験プログラムでは、海の未来を創造する仕事として、『**2050年には海に未来都市ができるかもしれない。そんな未来を絵に描き、発表する仕事**』に挑戦しました。参加した小学生たちは、当社が創業100周年を迎える2048年頃の未来社会コンセプト「Ocean 5.0」の考え方を学んだ後、“海との共存共栄”をキーワードに以下の3つのミッションに取り組みました。

- ①**2050年の海での暮らしを考える**
- ②**私たちが住む街を絵に描く**
- ③**みんなの前で発表する**



海のお仕事体験プログラムに参加した小学生と当社の先輩社員

・詳細：https://www.furuno.co.jp/news/general/general_category.html?itemid=1693&dispmid=1017

阪神間の高校生と、海洋プラスチック課題を議論

大阪府、大阪大学連携「海洋未来プロジェクト」

FURUNOは2025年7月26日（土）に、スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）^{※1}支援事業の取り組みとして**阪神間の高校生を当社に招待し、海洋プラスチック課題に関する講義および生徒同士での議論の場を設けるなど社会課題への問題意識の醸成と課題解決に向けた意見交換**を実施しました。

海洋流出ごみの約95%は海中に沈んでいるとも言われており、当社は海に育てられた企業としてこれを取り組むべき社会課題と捉え、今年2月に大阪府環境農林水産部（以下、大阪府）、大阪大学大学院工学研究科（以下、大阪大学）と3者連携協定を結び、海に流出するごみの解決に向けた取り組みを推進しています。今回の場は、SSH指定校である西宮市立西宮高等学校が企画として立ち上げた「海洋未来プロジェクト」に、当社および大阪府・大阪大学と連携して取り組むもので、次世代を担う生徒が企業の課題解決における最新の取り組みを学ぶことで、社会課題を認識し問題意識を持つことを目的としています。



・詳細：https://www.furuno.co.jp/news/general/general_category.html?itemid=1693&dispid=1017

※1 SSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）：https://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/gakkou/1309941.htm

「統合報告書 2025」を発行

サステナブルな社会の実現とさらなる企業価値の向上に向けて

当社は、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆さんに、**中長期的な企業価値向上を目指す**ための事業活動や中期経営計画、サステナビリティへの取り組みを財務・非財務の両面からわかりやすくお伝えするために、2023年より統合報告書を発行しています。

本報告書では、FURUNOの価値創造の源泉である経営資本について改めてご理解いただくとともに、持続的な成長に向けた指針を示すことを目的に、**当社の経営資本の詳細や、キャッシュアロケーションの方針、そして進行中の中期経営計画の下で実行している事業戦略**などについて新たに掲載しています。

今後も当社では、統合報告書や公式ウェブサイトによる情報開示の充実を通じて、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを大切にしながら、さらなる企業価値の向上を目指してまいります。

- ・日本語版：<https://www.furuno.co.jp/csr/report/>
- ・英語版：<https://www.furuno.co.jp/en/csr/report/>



FURUNOグループの事業概要

FURUNOは1948年に**世界で初めて魚群探知機の実用化に成功**して以来、舶用電子機器分野において、その独自の超音波技術と電子技術をもとに数々の世界初・日本初の商品を提供し続けてきました。そして今日、**世界100カ国以上に販売拠点**を有し、**世界規模の舶用電子機器総合メーカー**として確固たる地位とブランドを築いてきました。



西宮本社



研究開発棟 SOUTH WING

2025年2月28日現在

社名	古野電気株式会社
本社所在地	兵庫県西宮市
設立	1951年(昭和26年)
事業内容	舶用電子機器および産業用電子機器などの製造・販売
資本金	7,534百万円
従業員(連結)	3,368名
売上高(連結)	126,953百万円
代表者	古野 幸男
上場取引所	東京証券取引所 プライム市場

I R情報サイト ⇒ <https://www.furuno.co.jp/ir/>

製品情報サイト ⇒ <https://www.furuno.com/>

企業ブランドサイト ⇒ <https://www.furuno.com/special/jp/corporatemovie/>

安全安心・快適、 人と環境に優しい社会・航海の実現



商船 向け事業



レーダー



ECDIS
(電子海図情報
表示システム)

衛星通信装置

漁業 向け事業



ソナー



魚群探知機



潮流計



無線機器

プレジャーボート 向け事業



レーダー



GPSプロッタ魚探



オートパイロット

ワークボート 向け事業



レーダー



マルチファンクション
ディスプレイ



GPSプロッタ魚探



オートパイロット

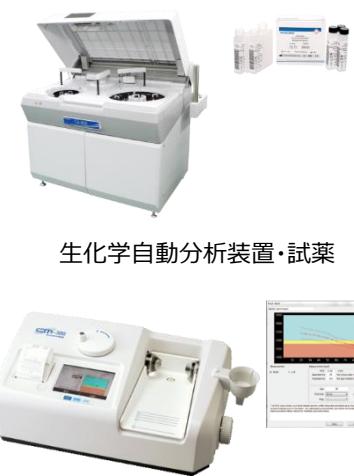
市場別で見たFURUNOの商品情報：産業用事業

FURUNO

ITS・GNSS 事業



ヘルスケア 事業



防衛装備品 事業



無線LAN・ハンディ ターミナル事業

